

官報

號外 昭和十九年二月六日

○第八十四回衆議院議事速記録第十號

昭和十九年二月五日(土曜日)

午後一時七分開議

議事日程 第八號

昭和十九年二月五日

午後一時開議

第一 勞働者年金保險法中改正法律案

(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第二 農林中央金庫特別融通及損失補償法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第三 絲價安定施設法廢止及蠶絲業統制法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第四 必勝決議案(前田米藏君外百四名提出)

(左ノ報告ハ、朗讀ヲ經サルモ、參照ノ爲茲ニ掲載ス)

一、議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
大東亞戰爭殉職船員ノ處遇ニ關スル建議案

提出者

小野寺有一君 小林鐵太郎君

永田 良吉君

(以上二月三日提出)

必勝決議案

提出者

前田 米藏君

太田 正孝君

勝田 永吉君

清瀨 一郎君

櫻井兵五郎君

眞藤慎太郎君

津雲 國利君

永井柳太郎君

松野 鶴平君

三好 英之君

安藤 覺君

綾部健太郎君

今尾 登君

上田 孝吉君

小高長三郎君

勝又 春一君

喜多壯一郎君

窪井 義道君

河野 密君

作田高太郎君

田嶋榮次郎君

田村 秀吉君

武知 勇記君

鶴見 祐輔君

豐田 收君

井野 碩哉君

勝 正憲君

金光 庸夫君

近藤英次郎君

四王天延孝君

田邊 七六君

東郷 實君

橋本欣五郎君

松村 謙三君

八角 三郎君

青木 精一君

伊豆 富人君

今牧 嘉雄君

植松 練麿君

越智大兵衛君

川島正次郎君

清 寬君

小泉 純也君

佐藤洋之助君

澤田 利吉君

田中 武雄君

高橋 守平君

津崎 尙武君

東條 貞君

中井 一夫君

中瀨 拙夫君

長野 高一君

西方 利馬君

肥田 琢司君

堀内 一雄君

松田 正一君

宮澤 裕君

山口喜久一郎君

依光 好秋君

松田竹千代君

前田房之助君

船田 中君

中島彌團次君

一宮房治郎君

池田 秀雄君

岸田 正記君

牧野 良三君

阿子島俊治君

稻葉 圭亮君

菅野和太郎君

酒井 利雄君

田中 貢君

中原 謙司君

中村庸一郎君

南條 德男君

濱地 文平君

村松 久義君

吉植 庄亮君

藥學專門學校名變更並内容改善ニ關スル建議案

提出者

石坂 繁君

伊豆 富人君

荒川 眞郷君

中西 敏憲君

檜橋 渡君

馬場 元治君

一松 定吉君

眞鍋 儀十君

松村 光三君

森下 國雄君

山本 彥吉君

小泉又次郎君

横川 重次君

三浦 一雄君

松本 忠雄君

木村 正義君

濱野徹太郎君

加藤鎌五郎君

三善 信房君

小山倉之助君

石坂 繁君

神尾 茂君

木下 義介君

阪本 勝君

頼母木眞六君

中村三之丞君

成島 勇君

西川 貞一君

藤本 捨助君

森田重次郎君

三善 信房君

深水 吉毅君

戰時司法挺身制度確立ニ關スル建議案

提出者

木下 郁君

石坂 繁君

江口 繁君

(以上二月四日提出)

一、昨日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

鐵道敷設法戰時特例案

郵便法中改正法律案

昭和十九年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル等ノ爲ノ公債發行ニ關スル法律案學校特別會計法案

厚生保險特別會計法案

農業家畜再保險特別會計法案

簡易生命保險及郵便年金特別會計法案

臺灣事業用品資金特別會計法案

作業會計法外十法律中改正法律案

國有財産整理資金特別會計法外三法律ノ廢止ニ關スル法律案

臨時資金調整法中改正法律案

臨時喪失無記名國債證券臨時措置法案

煙草專賣法及鹽專賣法中改正法律案

○議長(岡田忠彦君) 是ヨリ會議ヲ開キマ

ス

○森下國雄君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際日程第四必勝決議案ヲ繰上ゲ上程シ、其ノ審議ヲ進メラレシコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 森下君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、政府ハ此ノ議事日程變更ニ同意セラレ

マシタ、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ。日程第四、必勝決議案ヲ議題ト致シマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス。提出者清瀨一郎君

第四 必勝決議案(前田米藏君外百四名提出)

必勝決議案

戰局今ヤ重大皇國ノ興廢スノ機ニ存ス我等一億奮然蹶起彌、國民ノ總力ヲ必勝ノ一點ニ結集シ以テ敵米英ヲ擊摧スヘシ右決議ス

(清瀨一郎君登壇)

○清瀨一郎君 上程ニナリマシタ必勝決議案ノ趣旨ヲ辯明致シタイト存ジマス、決議案ノ本文ハ次ノ通りデアリマス

戰局今ヤ重大皇國ノ興廢スノ機ニ存ス我等一億奮然蹶起彌、國民ノ總力ヲ必勝ノ一點ニ結集シ以テ敵米英ヲ擊摧スヘシ右決議ス

(拍手起ル)

諸君、一月三十日朝來有力ナル敵部隊「マーシャル」群島ニ來襲シ同方面ノ帝國海陸軍部隊ハ之ヲ激擊激戰中ナリ。此ノ報道ガ大本營ヨリ發表サレマシタノハ同月ノ三十一日ノ午後デアリマシタ、「マーシャル」群島ハ申スマデモナク皇國ノ領域デアリマス、國民ハ此ノ攻防ノ經過ヲ手ニ汗ヲ握ツテ待ツテ居ルノデアリマスガ、先刻右戰鬪ノ經過ガ發表セラレマシタ、敵ノ一部ハ群島ニ上陸致シテ居リマス、從軍將兵ノ忠魂義膽、唯々感謝感激ノ外ハアリマセズ、「ラバウル」其ノ他「ニューブリテン」ノ我が基地ニ於キマシテモ、又「ニューギニア」ノ戰線ニ於キマシテモ、日夜悽愴苛烈ナル戰鬪ガ繼續致

シテ居リマス、「ビルマ」其ノ他ノ第一線ニ於キマシテモ、戰機ハ今ヤ熟シテ居ルノデアリマス、彼我ノ激鬪ハ近キニアルト思ハレマスルガ、實ニ是ハ容易ナラヌ様相デアリマス、皇國隆替ノ機微ハ實ニ此ノ間ニ伏在致シテ居リマス、斯ウ云フ重大機微ノ時代ニハ、我々國民ハドウ云フ心構ヘヲスルカ、局部的ノ一勝一敗ニ一喜一憂スルコトナク、興奮ノ情、焦燥ノ感ハ之ヲ抑ヘテ、冷嚴ナル態度ヲ持シテ、周密ナル計畫ヲ立テ、時ヲ失ハズ機ヲ失セズ、國家ノ總力ヲ動員シテ之ニ對處スルノデナケレバナリマセズ

東條首相ハ先日ノ施政方針ノ演説ニ於テ、戰爭遂行ノ要諦ヲ吐露サレテ居リマス、ソレヲ簡潔ニ申シマス、焦慮反攻ノ敵ヲ捕捉撃滅スル、焦慮スル敵ヲ叩キ伏セル、我が戰力ヲ飛躍的ニ増強シツ、物心兩面ニ互ル長期戰ノ構ヘヲ固メル、サウシテ更ニ攻勢ニ轉ジテ敵ヲ屈服セシムル、此ノ三ツデアリマス、爾來約半月ノ間ノ出來事ヲズツト見マシテモ、總理御示シノ三箇條ハ適切デアリマス、首相ハ以上三箇條ノ戰爭遂行要諦ヲ基礎トシマシテ、之ニ應ジテ國內ニ施スベキ政策ノ重點ヲモ舉ゲラレマシタ、ソレハ航空機其ノ他重要軍需物資ノ飛躍的増産、國民勤勞ノ強化、海陸運輸ノ確保向上、食糧ノ確保、官吏服務ノ決戦化ノ此ノ五ツデアリマス、我々ハ首相ノ示サレマシタ戰爭遂行ノ要諦、國內施策ノ重點、之ニハ異存ガナイ、異存ナキノミナラズ大イニ之ヲ支持シタイト思ツテ居リマス、併シ一體ドウシテ之ヲ實現スルカ、ドウシテ此ノ戰爭要諦ナリ國內重要施策ヲ實行スルノカ、先ヅ當手手段トシテ考ヘラレルノハ、之ヲ實現スル法律ナリ勅令ヲ定メル、之ニ必要ナ

豫算ヲ盛ル、法律ヲ豫算ガ出來タラ之ヲ行政ニ移ス、是ガマア一應考ヘラレル所デアリマスルガ、法令ト、豫算ト、行政ト、此ノ三ツダケハ魂ガナイ、動カス力ガナイ、平時ハサウヤツテ來タノデス、平常時ハソレデ宜イデアリマセウ、併シ戰爭ノ時代ニ躍進的ノ推進ヲスルト云ツタ時分ニハ、法律ト豫算ト行政ダケデヤ事ヲ辦ジナイ、ソコニ國民全體ノ戰爭遂行ノ熱烈ナル意欲ト云フモノガ加ハラナケレバ到底成功スルモノデハアリマセズ(拍手)然ラバ戰爭遂行ノ意欲、國策遂行ノ意欲ト言ヘバ、日本國民ハソレレドノ國ノ國民ニモ優ツテ之ヲ内ニ藏シテ居ル、奉公ノ念ニハ燃エテ居リマス、併シ斯クノ如キ意欲ト云フモノハ、個人個人ガ一人ヅ、心ノ中ニ持ツテ各別ニ行動スルヨリモ、之ヲ他ノ人ト結合シテヤリマスルト、非常ナカラ持ツ、二人結合スレバ倍ニナルノデヤアリマセズ、三倍ニナリマス、三人結合スレバ五倍ニナリマス、内在スル意欲ハ他ト結合スルコトニ依ツテ、幾何級數的ニ大イナル力ヲ増スノデアリマス、デアリマスカラ是ガ全國的ニ結合致シマスルト、實ニ無限ノ威力ヲ發揮スルノデアリマス(拍手)私ハ今日ノ狙ヒハ、政府モ色々ナ施策ヲ考ヘテ居ラレル、我々モ考ヘテ居ルガ、先ヅ今ノ所モウ一ツ進ンデ考ヘル所ハ此ノ機微デアラウト思フノデス、國民ノ熱意ヲ結合スルコトニ依ツテ倍大ノ威力ヲ發揮セシメル、私ハ此ノコツガ更ニ必要デアルト思ヒマス、諄イヤウデスガ、モウ一度申シマス、我ガ國今日ノ急務ノ第一ハ航空機ノ生産デス、急速生産デス、本期議會ニナツテ議場、委員會ヲ通ジテ、當局ハ前年度ノ數倍ニ當ル増産ノ計畫ヲ立テラレマシタ、

之ヲ聽イテ私共意ヲ安ンジタ、併シ航空機數倍ノ増産計畫ガ實現スルカ否カハ、實ニ是ガ國家ノ興亡隆替ニ關スル重大事デアリマスルガ、ソレヲ實現スル原動力ハ何處ニアルカ、航空機何倍ノ計畫ヲドウシテ實行スルカ、是ハ工員、從業員、生産管理者ハ申スニ及バズ、廣ク國民全般ノ決勝ノ信念ト結付イタ旺盛ナル國策遂行ノ意欲ダナケレバナラスト思ヒマス(拍手)此ノ意欲ヲ統合把握スルコトニ依ツテ、躍進的ノ效果ガ期待サレマス、此ノ決議案デ「國民ノ總力ヲ必勝ノ一點ニ結集シ」ト云ツタノハソレナシデス、船舶ノ急造建造ニ致シマシテモ、運輸ノ増強ニ致シマシテモ、鐵鋼、石炭ノ増産ニ致シマシテモ、ソレハ同ジ道理デアリマス、農産物ノ増産ニハ責任生産制ガ最も適當ナリト言ハレテ居リマス、農民ノ戰爭遂行ノ意欲ト結び付イタ責任制ヲ執リマスルト云フト、生産ハ必ズ倍從致シマス、戰時生活ノ規正ニ致シマシテモ、防禦ニ致シマシテモ、防空ノコトニ致シマシテモ、限リアル數千、數萬ノ警察官ダケデ是ガ遂行ハ到底出來マセズ、之ヲ完全ニ遂行スルモノハヤハリ國民全體ノ戰爭完遂ノ意欲デアリ、實ニ統一一致シマシタ國民運動ガ存在スルコトニ依ツテ、初メテ是等ノ效果ガ發揮サレルノデアリマス、戰意ノ昂揚、國民精神ノ昂揚、是等ノコトニ至リマスルト特ニサウデアリマス

願ミマスルト、昭和十五年ノ八月デアリマス、アノ時ニ我ガ國ニ國內新體制運動ト云フモノガ擡頭致シタ、マダアノ記憶ハ新タデアリマス、アノ當時ハ支那事變ハ既ニ滿三年ニナツテ居リマス、「ヨーロッパ」ノ風雲ヲ察シマスルト、是ハドウシテモ世界

の大戦ニナルト云フコトが豫感サレタ、ソ
コデ日本ハドウシタカ、従前ノ政黨ハ悉ク
解消致シマシテ、國民政治力ヲ一元化セン
ト欲シタノデアリマス、同年ノ十月ニ大政
翼賛會ガ出来マシテ、茲ニ新體制運動ハ一
段落ヲ告ゲタ、ソレガ十五年ノ十月デアリ
マスカラ、爾來數年ヲ經テ居リマス、此ノ
間ニ國民總力ノ結集ハドウシタラ宜イカト
云フコトデ、各方面ハ非常ナ苦心ヲ重ネマ
シタ、議會ノ者モ研究シタ、歴代ノ政府モ
研究サレタ、翼賛會當局モ苦心ヲ拂ハレタ
デアリマセウ、ソコデ數回ノ改革モ試ミラ
レタ、世間デハ改組ト言ツテ居ル、然ルニ
今日只今ノ現狀ヲ見マスルト、國民總力ノ
結集ナリ、運行ハ遺憾ナガラ未ダ理想的デ
ハナイノデアリマス、残念ナガラ是ハ認メ
ザルヲ得マセウ、色々アリマスルガ、例ヘ
テ見マスルト、行動意欲ニ燃エテ居ル多數ノ
青年、壯年、是等ノ者ガ所在ニ澤山アリマ
スルケレドモ、其ノ行動ガ十分ニ伸暢シ得
ラル、ト云フ態勢ニハナツテ居リマセウ、
是ハドウシテモ速カニ改革シテ國民ノ總力
ヲ必勝ノ一點ニ結集シテ、無礙絶大ノ威力
ヲ發揮スルヤウニシナケレバナラヌト思ヒ
マス、青年ノ爲メデモ政治家ノ爲メデモナ
イ、國家ノ爲メ聖戰ノ爲メデアリマス、サ
ウシテ聖戰ヲ完遂スルノ大原動力ヲ作ル、
是ガ私ハ今期議會ニ於テ此ノ議會ヲ一機ト
シテ、我々ガ考フベキ一ツノ具體的ナ大キ
ナ仕事デアラウト思ヒマス(拍手)

諸君現下ノ戰局ノ様相ハ、冒頭ニモ「マ
シタル」「ラバウル」ニ關係シテ一通リ述
ベマシタ、敵ノ方デモ今年ハ決戦ノ年ダト
言ツテ居ル、我々モ本年ハ決戦ノ年ダト
ツテ居ル、現ニ數千「キロ」ノ第一線ノ砲聲

ナリ爆音ナリハ、此ノ肉體ノ耳ニハ聞エマ
セスケレドモ、心ノ中ノ耳ニハ轟々トシテ
日々夜々響キ來ツテ居ルノデアリマス、全
體敵ノ隱レタル戰爭目的ハ實ハ領土ノ略奪
デス、東亞ノ奴隸化デス、敵ノ太平洋ニ對
スル野望ハ實ニ執拗デ惡辣デアリマス、如
何ニ叩カレテモ潰サレテモ、犠牲ヲ顧ミズ
ニ壓倒的ナ物量ヲ特ニ押シテ押シテ押シ
切ラウトシテ居ル、之ニ對處スル策ハ言ハ
ズシテ明カデアアル、敵ノ押シテ來ル力以上
ノ力デコチラガ押スコトデアアル、敵ガ三ノ
力ヲ以テ押セバ我レハ五ノ力ヲ以テ押返ス、
敵ガ五ノ力ヲ出シテ來レバコチラハ十ノ力
ヲ出シテ押返ス、此ノ外ハアリマセウ、戰
力ト云フ中デ我ガ將兵ノ士氣ト戰技ガ彼ニ
數倍スルコトハ言フヲ俟タス、問題ハ軍需
資材デス、別ケテモ航空機、船舶デアリマ
ス、サウ致シマス、結局今日ノ急務ハ生
産増強ト云フコトニナル、今日デハ前線ト
銃後ノ區別ハナクナツテシマツタ、此ノ軍
需資材ヲ造ル工場ガ即チ戰場デス、是デ能
率ヲ擧ゲタ國ガ勝ツ、國內全般ガ第一線デ
ス、此處デ志氣ノ昂揚シタ國ガ勝ツンデ
ス、敗戦思想ノ行ハレタ國ハ負ケル、斯ウ
云フ時代ニ當リマシテ我々身ヲ政界ニ託ス
ル者ハドウスルカ、即チ筆ヲ投ジ簿冊ヲ抛
ツテ、一億敵國ノ陣頭ニ起タウデハアリマ
セウカ、率先躬行、流汗皆働、一機ノ航空
機、一塊ノ石炭、一粒ノ米麥デモ其ノ増産
ニ参加スル、生産ニ挺身スル、ソレデ頑敵
米英ヲ擊攘スル、道義ニ基ク大東亞ヲ完成
シテ、聖旨ニ應ヘ奉ルコトガ、我々ノ任務
デハアリマセウカ(拍手)

官報號外 昭和十九年二月六日 衆議院議事速記第十號 勞働者年金保險法中改正法律案 第一讀會ノ續

出ノ理由ノ大體デゴザイマス(拍手)
○議長(岡田忠彦君) 採決致シマス、本案
ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス
(總員起立)
○議長(岡田忠彦君) 起立總員、仍チ本案
ハ全會一致可決致シマシタ(拍手)内閣總理
大臣ヨリ發言ヲ求メラレテ居リマス——東
條内閣總理大臣
(國務大臣東條英機君登壇)
○國務大臣(東條英機君) 只今本院ニ於キ
マシテ、全會一致ヲ以テ必勝決議案ヲ議決
セラレマシタルコトハ、洵ニ力強キ限りデ
アリマス、今ヤ戰局ハ、御承知ノ如ク激化
ノ一途ヲ辿リ、日ニ月ニ酷烈ヲ極メ、正ニ
皇國ノ興廢、大東亞ノ隆替ヲ決スルノ秋ト
相成ツテ居ルノデアリマス、此ノ秋ニ方
リ、飽クマデモ戰ヒ抜キ、勝ち抜クノ途ハ
一億國民擧ゲテ正義ノ戰ヒノ勝利ヲ確信
シ、強靱ニ總力ヲ必勝ノ一點ニ結集シ續ケ
テ行クバカリデアリマス、是ガ爲メ政府ト
致シマシテハ、此ノ上トモ一億國民ノ力ヲ
最モ有效ニ、戰力ノ増強ニ集中セシメ得ル
ノ方途ヲ講ジテ參ル所存デアリマス、而シ
テ是ガ實行ニ當リマシテハ、先般本議場ニ
於キマシテ觸ル、所ガアツタノデアリマス
ルガ、政府ト致シマシテハ、從來ノ行掛リ
ニ囚ハレズ、採ルベキハ採リ、改ムベキハ
改メ、以テ決戦下愈、盛り上ル國民ノ忠誠心
ノ發揚ニ萬全ヲ期シテ參ル所存デアリマス
(拍手)此ノ點ニ於キマシテ、今後益、諸君ノ
御力ニ俟ツ所、大ナルモノガアルノデアリ
マシテ、此ノ上トモ諸君ノ積極的ナル御協
力ヲ切望スル次第デアリマス(拍手)
皇國危急ノ秋ニ方リ、國民ヲ代表サレマ
スル所ノ諸君ノ烈々タル敢闘ノ決意ニ接シ

マシテ、政府ト致シマシテハ、無限ノ力強
サヲ感ズル次第デアリマス、諸君、戰勝ノ
決ハ懸ツテ一億國民ノ結束ニ存スルノデア
リマス、茲ニ重ネテ官民一致協力、擧ゲテ
其ノ總力ヲ必勝ノ一點ニ結集シ、只管戰力
ヲ増強シテ、速カニ敵米英ヲ擊攘シ、以テ
聖慮ヲ安ンジ奉リシコトヲ固ク期スル次第
デアリマス(拍手)
○議長(岡田忠彦君) 日程第一、勞働者年
金保險法中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開
キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員
長山本芳治君
第一 勞働者年金保險法中改正法律案
(政府提出、貴族院送付)
第一讀會ノ續(委員長報告)
報告書
一 勞働者年金保險法中改正法律案(政府
提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
昭和十九年二月四日
委員長 山本 芳治
衆議院議長岡田忠彦殿
(山本芳治君登壇)
○山本芳治君 只今議題トナリマシタ勞働
者年金保險法中改正法律案ノ委員會ニ於ケ
ル審議ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス
委員會ハ前後六日間ニ互リマシテ、午前
午後ヲ通ジテ審議ヲ重ネタノデアリマスル
ガ、先ツ提案趣旨ニ付キマシテハ厚生大臣
ノ説明ヲ聽キ、法案ノ内容ニ付キマシテハ
政府委員ノ説明ヲ聽キマシテ、質疑應答ヲ
進メタノデアリマス、質疑應答ノ大體ヲ申
シマスレバ、大別シテ二ツニ分ケルコトガ

以上ノ考ヘデ本案ヲ提出シ、衆議院ノ總
意ヲ表明致シタイト存ジマス、是ガ本案提

出來ルト思ヒマス、其ノ一ハ案ノ内容ニ關スルモノデアリマス、其ノ二ハ本案ニ牽聯シテ質問デアリマス

正ヲ行フト云フ御答ヘガアリマシタ、其ノ次ニ本法ノ福祉施設ヲ實施スル機關トシテ、年金保險厚生團ガ創設セラレタノハ、時宜

題ニ付テ委員ト政府トノ間ニ熱心ナリ質問應答ヲ重ネタノデアリマスガ、詳細ハ速記録ニ依ツテ御承知ヲ願ヒタイノデアリマス、

萬ヲ突破シテ居ル、此ノ強靱ナル人口増殖ノ力ハ世界ノ驚異ノ的ニナツテ居ルト云フ點ヲ明カニセラレタノデアリマス、我ガ國

先ヅ案ノ内容ニ觸レタモノカラ御報告申上ゲマスレバ、第一ニ本法ニ依ツテ事業所ニ勤務スル一般勤勞者ニ保護ノ強化ヲ圖ツ

ヲ得タル措置デハアルガ、其ノ機構ノ内容、事業ノ内容ガ如何ニモ貧弱デアル、是デハ

其ノ二ハ勤勞動員徵用ノ問題デアリマス、其ノ一ツハ國民動員ノ機構ヲ中央、地方ヲ

ノ人口構成ヲ圖デ現ハセバ、富士山ノ如クニ雄大ナル裾野ノ上ニ立ツテ居ルノデアツ

タノハ、戰時下適切ナル處置トスベキデア

ヘマシテ、政府ハ現在ノ機構ハ創設勿々ノ暫定的ノ機構デア

通ジテ一元的ニ強化シ刷新スルコト、二、應徵士ノ生活ヲ保障スル爲ニ徵用前ノ收入

ト對照シテ、戰時下帝國人口ノ構成ハ富嶽ノ泰キニアルコトヲ思ウテ、感激ニ堪ヘナ

ルガ、反面ニ於テ、本法ノ適用ナキ農業者、漁業者、獨立ノ小サイ商工業者等ニ對シテ

トスルト云フ答辯ガアリマシタ、其ノ次ニハ本法ノ改正ニ於テ、鑛山勤勞ノ重要性ニ

シテ居ルモノガアルニ拘ラズ、ナゼ政府ハ之ヲ斷行シナイカト云フ質問ニ答ヘマシテ、

ハ此ノ説明ヲ聽キマシテ意ヲ強クシタノデアリマス、其ノ外本案ニ牽聯シテ健民政策、

モ、勤勞ノ國家性カラ考ヘテ、同様ノ制度ヲ創設スル意思ガナイカト云フ質問ニ答ヘ

居ルノハ宜イガ、其ノ優遇ヲ被保險者期間ノ加算ニ限定シタノハ遺憾デア

政府ハ現在ノ所女子ノ徵用ハ之ヲ受入レル體制ガ整ツテ居ナイカラ行ハヌノデア

ハ速記録ニ依ツテ御承知ヲ願ヒタイノデアリマス

マシテ、政府ハ其ノ必要ヲ認メテ居ルガ、是等ノ勤勞者ハ收入ノ態様、勤勞ノ條件等、

務ノ定著ト充足ヲ圖ル爲ニハ、年金開始年齢ヲ、五十歳カラ引下ゲテ四十歳乃至四十

女子ノ徳性ニモ、作業ノ上ニモ影響スルカラ、政府ハ此ノ點最モ重要ナルヲ認メテ、受

ニ、委員會ノ空氣ヲ反映致シマシテ、強烈ナル希望ヲ見ユ述ベラレマシタ、其ノ一

保險技術ノ點カラモ、負擔力ノ點カラモ、慎重ニ研究ヲ要スルモノガアルカラ、今後十分

齡ヲ、五十歳カラ引下ゲテ四十歳乃至四十歳ニスル必要ハナイカ、此ノ間ニ對シテ

入體制ノ完備ニ付テ銳意指導ニ努力シテ居ルト云フ答辯ガアリマシタ、其ノ外女子

ニ鑑ミテ、坑内夫ノ勤勞ヲ増強スル爲ニ、戰時特例的ノ措置ヲ適切ニ、活潑ニ、

分ニ檢討ヲ加ヘタイト云フ答辯デアリマシタ、次ニハ現行ノ社會保險制度ハ複雑多岐

政府ハ、政府モ立案ノ當初一應考慮シタ點デア

勤勞ノ定著ト充足ヲ圖ル爲ニ指名徵用ヲ行ハナイカト云フ質問ニ對シテ政府ハ、賃金給

大イニ努力シテ貫ヒタイト云フノデアリマス、其ノ二ハ、一般被保險者ニ對スル

ニ互ツテ、其ノ取扱上種々困難ナ點ガアルカラ、政府ハ之ヲ單一ナ制度ニ取纏メル意

此ノ問題デ勤勞能率ヲ昂メルト云フ觀點カラ一簡條書ヲ申上ゲマシタ、一、勤勞者

其ノ四ハ炭礦勤勞ノ問題デアリマス、炭礦勤勞ノ定著ト充足ヲ圖ル爲ニ指名徵用ヲ行

ノ國家性ニ考ヘ及ンデ國庫、專業主、被保險者ニ於テ三等分スル位ニ、國庫負擔ヲ増

思ハナイカ、又之ヲ單一制度トスル場合ニドウ云フ方針ヲ以テ行フ積リデア

合ニ付テハ、調査會ヲ設ケテ調査研究ヲスル、短期保險ノ統合ハ大體ニ於テ職域、地

足ヲ圖ルベキデアルト考ヘテ居ル、指名徵用ハ行ハヌ考ヘデアルト云フ答辯ガアリマシ

村ニ於ケル社會保險ニ付テモ同様國庫ノ負擔ヲ増額シテ、勤勞ノ國家性ヲ發揮シテ貫

上御報告申上げマス(拍手)

○議長(岡田忠彦) 討論ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——河野密君

(河野密君登壇)

○河野密君 私ハ只今上程セラレマシタル労働者年金保險法中改正法律案ニ對シマシテ贊成ノ意思ヲ表明セントスル者デゴザイマス

本改正案ハ勤勞者ノ恩給制度トモ申スベキ年金保險ノ範圍ヲ擴充シ、勤勞者ガ老後ノ生活ニ對スル保障ヲ得、安シクテ生産ニ邁進シ得ルヤウ致サントスルモノデアリマシテ、此ノ改正ハ概ネ適切ニシテ我等ノ衷心ヨリ贊成スル所デゴザイマス、唯、只今委員長報告ニモアリマシタヤウニ、現時ノ急迫ヲ告ゲツ、アル炭礦勞務者ニ對スル施策ニ付テハ、本案ヲ以テスルモ尙ホ未ダ足ラザルモノアリトノ議ガ強ク主張致サレマシタノニ鑑ミマシテ、本年金法ノ改正ト共ニ、政府ニ於テ適切ナル對策ヲ講ゼラル、ヤウ、此ノ際希望ヲ申述ベタイト存ズルノデアリマス

私ハ此ノ場合國家幾百萬ノ勤勞者、特ニ國家ノ徵用ヲ受ケテ勇躍生産陣ニ挺身シツツアル應徵者ノ諸君ニ對シテ、心カラナル感謝ト激勵ト辭トヲ送ラントスルモノデゴザイマス(拍手)戰局ノ苛烈ナルニ伴ヒマシテ、戰力增強ハ國家ノ一大要請トナツテ叫バル、ニ至リ、國民ノ眼ハ齊シク工場ニ向ケラル、ニ至ツタノデアリマス、戰力增強ヲ妨グル隘路アラバ、如何ニ小ナリト雖モ之ヲ許サズト云フ建前ニ於キマシテ、是ガ打開ノ途ヲ講ゼラレテ參ツタノデアリマス、物價ノ問題、資金資材ノ問題、行政的措置ノ問題、機構改革ノ問題等々、而シテ

今ヤ戰力增強ノ根本ハ勤勞ノ問題デアル、勤勞ノ生産性ヲ向上シ、其ノ效率ヲ高ムルコトガ、戰力增強ノ途ナリト考ヘラル、ニ至ツタノデアリマス(拍手)先般東條總理大臣ガ本議會ニ於キマシテ、生産管理ハ勤勞管理ナリト喝破致サレマシタノハ、此ノ間ノ消息ヲ語ル所ノ卓見トシテ、我等ノ深く傾聴セザルヲ得ナイ所デアリマス、是ニ於キマシテ我々ハ全國幾百萬ノ勤勞者ノ奮起ヲ冀ハザルヲ得マセヌ、特ニ所謂白紙應徵ヲ受ケテ職場ニ挺身シツ、アル應徵士ノ諸君ニ對シテ、其ノ全能力發揮ヲ希望セザルヲ得ナイノデアリマス、國民徵用制度ガ施行セラレマシテカラ五箇年、既ニ所謂白紙應徵ヲ受ケタ者ノ數ハ多數ニ上ツテ居ルノデアリマス、私ガ親シク數箇ノ工場ニ就イテ檢討致シマシタル所ニ依リマシテ、應徵士ノ前職ハ極メテ多種多様デアリマス、農業ヨリ來ル者一割六分、工業ヨリ來ル者一割二分、商業ノ轉業者四割七分、其ノ他二割四分ト相成ツテ居ルノデアリマス、即チ農アリ、工アリ、商アリ、公務自由業アリ、酒屋モアレバ豆腐屋モアリ、菓子屋モアレバ魚屋モアリ、呉服屋モアリ、植木屋モアリ、映畫俳優アリ、料理人アリ、宛然トシテ商賈往來ヲ繰展ゲタガ如キ觀ヲ呈シテ居ルノガ是等ノ前職デアリマス、即チ知ル、是等ノ應徵士ノ諸君ハ千態萬様ノ生活姿態ノ中カラ、白紙應徵ノマニ、舊來ノ生活ヲ一擲シ、舊慣ヲ打破シ、進ンデ生産陣ニ突入シ來リタルモノデアリマス、而シテ其ノ年齡層モ亦極メテ區々ニ、若キ者ハ十數歳ノ少年ヨリ、高キ者ハ四十歳ノ壯年ニ至ルマデ及ンデ居ルノデゴザイマス、生活姿態ノ相違カラ會テ相見ルコトナカリシ是等ノ人

人ハ、今ヤ同ジ工場ニ於テ一ツノ「ベルト」ニ繋ガリ、一器ノ旋盤ニ繞リ、相倚リ相助ケテ涙ガマシキ熱情ヲ生産ニ捧ゲツ、アルノデアリマス(拍手)我々ハ工場ニ、職場ニ、應徵士ノ「マーク」ヲ胸ニシテ、生産陣ニ雄々シク挺身シツ、アル彼等ノ姿ヲ見ル時ニ、深キ感激ヲ覺エザルヲ得ナイノデアリマス(「ヒヤ」「拍手)正直ニ申上げマシテ、是等ノ應徵戰士ヲ迎フベキ體制ハ今日完璧ナリト申スコトハ出來マセヌ(其ノ通り)ト呼ブ者アリ)食糧、宿舍、作業用資材必ズシモ十全ナリト申スコトハ出來マセヌ、ソレニモ拘ラズ多クノ應徵者ノ諸君ハ不平モ言ハズ、不満モ慫ヘズ、只管白紙應徵ノ精神ニ徹シ、黙々トシテ挺身シツ、アルノデゴザイマシテ、其ノ姿ハ正ニ皇國勤勞ノ權化ナリト申サナケレバ相成リマセヌ(「ヒヤ」「拍手)惟フニ是等ノ諸君ガ米英襲攘ノ闘魂ヲ籠メテ造ラレタル航空機ハ、船ハ、兵器ハ、彈丸ハ、必ズヤ宿敵粉碎ノ成果ヲ擧グベキコトヲ信ジテ疑ハナイノデアリマス(拍手)米英襲攘ノ其ノ日、是等ノ諸君ノ上ニこそ國民ノ最モ大キナ感謝ガ捧ゲラレ、最モ大キナ榮譽ガ捧ゲラルベキモノト信ズルノデアリマス

併シナガラ私ハ應徵者ノ諸君ニモ申上げタイ、勤勞報國ノ誠ヲ捧ゲツ、アルモノハ、獨リ應徵士諸君ノミデハゴザイマセヌ、今日國民ノ一人々々ハソレノ戰闘配置ニ就イテ居ルノデアリマス、私ハ福島縣ニ於キマシテ自ラノ多年ノ仕事ヲ抛ツテ、進ンデ地下勞働ニ突入シタ五十幾歳ノ床屋ノ姿ヲ見テ、肅然トシテ襟ヲ正シタコトガゴザイマス(拍手)私ハ北海道ニ於ケルサル炭礦ニ於テ、夫タル採炭夫ニヒモジイ思ヒヲサセ

ナイ爲ニ、自ラ粥ヲ啜リ、一食ヲ廢シテ居ル多數ノ婦人ノ姿ヲ見テ、崇高ナル感ニ打タレタコトガアルノデアリマス(拍手)山形縣ノ勤勞報國隊ニ於キマシテハ、其ノ隊員ノ一人ガ不幸ニシテ落磐ノ爲ニ非業ノ死ヲ遂ゲタニ拘ラズ、志氣益々旺盛、全員完全ニ其ノ使命ヲ果シタト云フコトヲ承ツタノデアリマス、私ノ狭イ見聞ノ範圍ヲ以テ致シマシテモ、一億國民ハ男女ノ別ナク皆戰闘配置ニ就イテ居ルノデアリマス、隨テ應徵士ノ諸君モ國民ノ烈々タル氣魄ヲ體認シ、假ニモ心ニ弛ミガアツテハナラナイノデアリマス、國民ノ強キ期待ヲ裏切り援護ニ狎ル、ガ如キコトガアツテハ相成ラヌノデ、嚴ニ其ノ點ヲ戒メテ欲シイト存ズルノデアリマス、巷間應徵士諸君ニ對シテ種々ナル聲ヲ聞クノデアリマス、併シ私ハ其ノ聲ノ擧ゲラル、源ヲ自ラ親シク突止メマシテ、其ノ數ノ極メテ少キコトヲ知ツタノデアリマス、併シナガラ其ノ數ハ極メテ少數ナリト雖モ、全應徵士ノ名譽ニ掛ケテモ自肅自戒ヲ冀ハザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)

諸君戰局ハ愈々酷烈ニ、敵ハ我が胸元ニ匕首ヲ擬シテ參リマシタ、非常ノ時ニハ非常ノ決意ヲ要シマス、空ヨリ來ルモノハ空ニ於テ擊滅スベシ、海ヨリ來ルモノハ海ニ於テ葬ムルベシ、劍ニハ劍、艦ニハ艦、量ヲ恃ム者ニ對シテハ量ヲ以テ對シ、飽クマデ彼等ヲ擊攘セズンバ已マザルノ覺悟ヲ此ノ際固クシナケレバナリマセヌ、今こそ國民ノ一人々々ガ起チ上ルベキ秋デアリマス、唯號令シ、唯號教フシ、唯徒ニ慷慨スベキ時デハゴザイマセヌ、各人ガ額ニ汗シテ歡喜力働、以テ一機ノ增強、一粒ノ増産ニ挺身シナケレバ相成ラヌノデアリマス、上下

ノ隔テナク、官民ノ別ナク、互ヒニ肩ヲ叩イテ、ドウダ兄弟ヤラウヂヤナイカト起チ上ルベキ秋デアルト存ズルノデアリマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(岡田忠彦君) 是ニテ討論ハ結局致シマシタ、本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

勞働者年金保險法中改正法律案 第二讀會(確定議)

○議長(岡田忠彦君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通リ可決確定致シマシタ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、日程第二、農林中央金庫特別融通及損失補償法中改正法律案、日程第三、絲價安定施設法廢止及蠶絲業統制法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス

第二 農林中央金庫特別融通及損失補償法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第三 絲價安定施設法廢止及蠶絲業統制法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書 一 農林中央金庫特別融通及損失補償法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月四日 委員長 深澤 吉平 衆議院議長岡田忠彦殿

報告書 一 絲價安定施設法廢止及蠶絲業統制法

中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月四日 委員長 深澤 吉平 衆議院議長岡田忠彦殿

〔深澤吉平君登壇〕

○深澤吉平君 只今議題トナリマシタ農林中央金庫特別融通及損失補償法中改正法律案外一件ノ特別委員會ニ於ケル審議ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス

本委員會ニ付託セラレマシタ二法案ノ骨子ニ付キマシテハ、本會議ニ於キマシテ政府當局ヨリ御説明ガアリマシタノデ、之ヲ省略致シタイト存ジマス

二月二十九日ヨリ二月四日ニ至ルマデ前後六回ノ委員會ヲ開催致シマシテ慎重審議ヲ遂ゲ、此ノ間法案ニ直接關係アル二、三ノ事項、又農商省全般ニ互ル一般行政ノ熱心ナル質疑應答ガアツタノデアリマスガ、其ノ

二、三ノ經過ヲ申上ゲマスレバ、先ヅ直接法案ニ關係スル事項ニ付キマシテハ、第一、農林中央金庫ノ特別融通ノ期間及ビ期限ハ昭和七年制定以來今日マデ三回ニ互リ、何レモ三箇年延長セラレテ居リ、今又更ニ三箇年延長セントスルノデアルガ、斯クシテ本制度ハ將來ズツト繼續セラレルコトニナルノデアルカ、或ハ又適當ノ時期ニ之ヲ打切ルノデアルカトノ質問ニ對シマシテハ、今日産業組合乃至是ガ

統合後ノ農業會ニハ尙ホ固定債權相當存シ、是ガ資金化ニ依リ團體金融ノ疏通ヲ圖ル必要ガアルノデ、本制度ヲ繼續實施セントスルモノデアリ、將來ノコトハ其ノ時ノ狀況ニ依ルコトト思フガ、性質ハ臨時的ノ

モノデアルトノ御答辯ガアリマシタ、第二ハ本制度ニ依リ特別融通ヲ受ケタ産業組合ニ對シテハ、是ガ更生ノ爲メ如何ナル指導監督ヲ加ヘテ居ルカトノ質問ニ對シマシテハ、特別融通ヲ受ケタ組合ニ對シテハ地方廳ニ於テモ、農林中央金庫ニ於テモ、當時適切ナル指導監督ヲナシテ來テ居ル次第、是ガ爲メ本制度實施ノ成績ハ極メテ良好デアツタトノコトデアリマス、而シテ又本制度ニ依リ更生シタ組合ノ實例モ少カラズ、償還成績モ極メテ良好デアルトノ答辯ガアリマシタ、第三ニ現在竝ニ將來ニ於ケル纖維需給狀況ニ鑑ミ產繭ノ確保ハ緊急ノ問題デアルガ、ソレガ爲メハ適切ナル桑園ノ確保施設、繭價ノ適正化、或ハ養蠶關係者ノ戰時農業要員トシテノ指定、養蠶指導ノ一元化及ビ指導員ノ確保トノ實施スベキデアルト思フガ、政府ハ如何ニ考ヘテ居ルカトノ質問ニ對シマシテハ、繭生産確保ノ爲メ從來モ種々施設ヲ講ジテ來タノデアルガ、今後トモ質問ノ趣旨ニ副フヤウ、一層各般ノ對策ヲ考究シテ參リタイトノ答辯ガアリマシタ、第四ニ纖維資源ノ開發確保ノ問題デアリマスガ、纖維事情ノ窮屈トナツタ今日、積極的ニ新シイ資源、例ヘバ桑皮、野生苧麻等ヲ開發利用スベキデハナイカトノ質問ニ對シマシテハ、政府ヨリ、新興纖維資源ノ利用ニ付キ、今後トモ大イニ努力シテ行キタイ旨ヲ答辯ガアリマシタ、第五ニ衣料問題デアリマスガ、之ニ付キマシテハ、衣料切符ノ點數ニ付キ、都市ト農村トノ區別ノ廢止、或ハ地理的乃至職域ニ依ル差等ノ設定、必需衣料、殊ニ制限小切符ノ對象タル纖維製品ノ供給ノ確保及ビ其ノ適正ナル配給方法、生産力擴充ノ爲メ必要ナル勞

働作業衣、徴用工ノ寝具ノ供給等ニ付キ質
疑ガアリマシタガ、之ニ對シマシテハ、衣
料切符ニ付テハ折角努力中デアツテ、殊ニ
縫糸ノ確保ニハ善處シタイコト、其ノ他最
低必需衣料ノ確保ニハ、種々施設ヲ講ジテ
參リタイ旨ノ答辯ガアリマシタ

次ニ一般問題ニ付キマシテハ、先ヅ第一
ニ米ノ供出ニ關シ、過去ニ於ケル供出方法
ハ幾多ノ缺陷ガアリ、此ノ際之ヲ改メ、其
ノ植付前ニ事前割當ヲ行ヒ、農民ノ責任供
出體制ヲ整備スルノ要アリト思フガ如何、
又供出義務數量以上ノ供出ニ對シ、報奨制
ヲ設クル意思ナキヤトノ質問ニ對シマシテ
ハ、植付前割當ヲナスコトニ付テハ、割當
後天候ノ不順等ノ爲メ收穫ガ激減シタ際ノ
措置等、實行上種々考慮セネバナラス點ガ
アルガ、政府トシテハ尙ホ十分研究シテ見
タイ、其ノ他報奨制ノ問題ニ付テモ、能ク
檢討シタイトノ答辯ガゴザイマシタ、次ニ
畜産ノ増殖ハ、現下軍需資材、殊ニカゼイ
ンノ急激ナル増産、自給肥料ノ供給確保ノ
點カラモ、勞力調整ノ點カラモ、又國民榮
養保持ノ點カラモ、極メテ必要デアルカラ、
之ニ對シ必要ナル飼料ノ確保、畜産技術指
導力ノ強化等ヲ圖ラレタイトノ質問ニ對シ
マシテハ、趣旨ハ同感デアツテ、折角種々
對策ヲ考究中デアルトノ答辯ガアリマシタ、
次ニ農村勤勞者減少ノ現狀ニ鑑ミ、勞力動
員及ビ學徒勤勞者ノ一層組織化計畫化ヲ圖ル
要ナキヤ、女子勤勞者ノ訓練及ビ作業用品
ノ特配等ニ付キ如何ニ考フルヤトノ質問ニ
對シマシテハ、將來御趣旨ノ點ヲ十分考慮
シテ參リ、一層農村ノ勞力確保ノ爲メ、實行ヲ
期スルヤウ努力シタイトノ答辯ガゴザイマシ
タ、其ノ他米穀年度ニ於ケル食糧自給ノ見

透シ、自作農創設維持、小作料ノ適正化、都
市疎開ニ伴フ食糧問題及ビ非常時食糧配給
及ビ末端配給機構ノ整備、除蟲菊ノ供給確
保、農村電化、優良馬匹ノ増産、甘藷ノ供
出、農産物等價格ノ適正化、化學肥料、農
村勞銀ニ關スル問題、農業藥劑ノ生産確保
及ビ水産並ニ漁船問題等、各般ノ問題ニ關
シ、ソレノ活潑ナル質疑應答乃至御意見
ノ開陳ガアリマシタガ、詳細ハ速記録ニ依
リ御覽ヲ戴クコトニ致シマシテ、此處ニハ
省略スルコトト致シマス

斯クテ昨四日質疑ヲ終リ、兩法案トモ討
論ヲ用ヒズシテ採決ニ入り、全會一致ヲ以
テ可決セラレマシタ、此ノ段御報告申上ゲ
マス(拍手)

○議長(岡田忠彦君) 兩案ノ第二讀會ヲ開
クニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシ
タ

○森下國雄君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開
キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り
可決セラレコントヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 森下君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

改正法律案 第二讀會(確定議)
○議長(岡田忠彦君) 別ニ御發議モアリマ
ス、第三讀會ヲ省略シテ、兩案トモ委員
長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)是ニ
テ議事日程ハ議了致シマシタ、次會ノ議事
日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是
ニテ散會致シマス
午後二時十四分散會

衆議院議事速記録第四號中正誤
頁 段 行 誤 正
六三三 「第十八條ノ八」 「第十條ノ八」

